



雲仙普賢岳平成大噴火

雲仙岳災害記念館 発行
2003年刊 A4判 87頁

1990年11月17日、普賢岳（九十九島火口、地獄跡火口）の2本の噴煙から始まった噴火活動は5年余続いた。その火山活動と大災害の様子を全頁にわたってカラー写真で説明している。

当時の噴火・災害の記憶を鮮明に再現させてくれる。この本は、火山体験学習施設として島原市に設立された雲仙岳災害記念館が、館内展示の解説書としての役割を果たすべく企画出版された。従って、一般の書店では購入できない。

本書は、1.雲仙普賢岳噴火の記録、2.復興から振興へ、3.資料編の3編から編集されており、その内容を紹介しますと以下の通りである。

1. 雲仙普賢岳噴火の記録

- ・はじめに
- ・1990年11月17日それは2本の噴煙から始まった
- ・1991年2月12日 再噴火（屏風岩新火口）は普賢神社の裏で始まった・・・
- ・1991年4月9日 マグマ水蒸気爆発
- ・1991年5月15日 初めての土石流が水無川流域に発生
- ・1991年5月 火口に溶岩ドームが出現
- ・1991年6月3日 大火砕流発生
- ・1991年6月8日 二回目の大火砕流発生・・・
- ・1991年6月30日 梅雨の大雨で土石流発生
- ・1991年9月15日 最大規模の火砕流発生
- ・1992年3月11日 火砕流が赤松谷方向に発生
- ・1992年8月8日 台風10号の影響で土石流
- ・1993年4月28日 中尾川でも土石流発生
- ・1993年6月18日 国道57号線にかかる水無川橋流失
- ・1993年6月23日 北東側斜面で火砕流
- ・1993年7月4日 中尾川流域で土石流
- ・1993年7月19日 火砕流が発生
- ・1993年8月19日 眉山六溪でも土石流発生
- ・1994年2月6日 北西側の湯江川方面にも火砕流発生
- ・1994年4月4日 ドームの標高が最高に

2. 復興から振興へ

- ・がまだす計画について（島原地域再生行動計画）
- ・農林・水産・観光・商工業の振興



・農地復旧、地域交通の確保の様子が写され、火山砂防ダムの全景写真は注意を引かれる。

3. 資料編（雲仙岳災害記念館）

標題ごとに解りやすい解説がある。

- ・雲仙とは
- ・雲仙火山の歴史
- ・島原大変、肥後迷惑
- ・生きている地球
- ・火山とマグマ活動
- ・日本の火山
- ・溶岩ドームとは
- ・火砕流とは
- ・土石流とは
- ・火山噴出物
- ・雲仙科学掘削
- ・火山噴火の予知
- ・予知から防災
- ・雲仙普賢岳の監視
- ・火山からの贈り物
- ・長かった災害
- ・復興へのあゆみ

この中で、科学掘削の意義が解説されている。最後に火山からの贈り物、豊かであった人間生活および当時の火山活動と自然災害の様子を色別に表現された日誌が柱状に掲載されている。続いて復興へのあゆみが紹介されている。近くを旅行される方にはぜひ記念館に立ち寄られることをお奨めします。

購入申込はFAX、郵便で、代金は下記口座へ、

- ・親和銀行島原支店 普通：1589139
- ・（財）雲仙岳災害記念財団
- ・1冊：2,000円＋180円（送料）＝2,180円
- ・3冊以上は送料実費で着払い
- ・雲仙岳災害記念館ミュージアムショップ
- ・電話：0957-65-5555 FAX：0957-65-5550
- ・〒855-0879 長崎県島原市平成町1-1

雲仙岳災害記念館は本誌576号で紹介されている、
（株）ダイヤコンサルタント 松井和典 元地質調査所